



JEACS 福音讃美歌 ジャーナル 2020.7 vol.29

新型コロナウイルス対応
デジタル版

Japan Evangelical Association
for Congregational Singing

新しい状況下での礼拝と讃美～ JEACS の新しい体制

福音讃美歌協会
理事長 中山信児

■厳しい現状とこれから

2020年の前半、世界の教会は新型コロナウイルスによって多大な影響を被りました。これまで当たり前のように行われてきた、教会に集まって礼拝をささげ、声を合わせて讃美歌を歌い、ともに聖餐をいただくという行為のすべてが、感染リスクを高めるという理由で大きな制約を受けることになりました。多くの教会が、今まで経験したことのない事態にとまどいながらも、新しい状況下での礼拝の持ち方、牧会の在り方を模索し、信仰と愛をもって、それぞれの在り方を選び取り、実践してきました。

集まることが困難になる中、多くの教会がインターネットの可能性に気づき、必要に迫られてではありますが強力なツールを手に入れ、これによって今まで届くことのできなかつた人たちにも届くことができるようになりました。同時に、インターネットや文書を通して家庭で礼拝することを選んだ教会では、ともに「声をあわせて」讃美をささげることができなくなるという問題に直面しました。この状況は、今も改善されているとは言えませんし、これからも短期間で劇的に改善する見通しは立っていません。

今、私たちは、共同の礼拝や会衆讃美について、さらには教会生活や信仰生活のあらゆる事柄について、神学的に問い直すとともに、みことばに立ちつつ従来の意識を柔軟に変革することを求められています。そのために、聖書学や組織神学のみならず、礼拝学、讃美歌学、牧会学といった諸分野においても検討が重ねられると同時に、様々な分野を超えた協働の取り組みがなされることが望まれます。

■二つの課題

讃美歌に関わることで、今回、クローズアップされた課題は大きく分けて二つあります。

第一は、どうすれば感染リスクを下げつつ、ともに会堂に集い、声をあわせて讃美歌を歌うことができるかという問題。第二は、インターネットでの礼拝配信における著作権の問題でした。

第一の課題については、今のところ楽観的な材料はほとんどありません。感染者の多い地域では、半年前のように感染対策を何もしないまま、会堂に集って近距離で歌うということは、当面、控えたほうが安全だと思われます。

CONTENTS

Page

- ・新しい状況下での礼拝と讃美 中山信児 1
- ・決算報告 3
- ・夏期献金のお願いと賛助会員のお誘い 4

スイスでは、この6月にオーケストラと数十人規模の合唱団によって、ベートーヴェンの交響曲第9番「合唱」が無観客で上演されました。合唱団はホールの客席を使って互いに十分な距離を取りながら、マスクを付けずに歌っていました。しっかりした感染対策と十分な距離を取ることができれば、讚美や合唱も可能であると感じましたが、教会とコンサートホール、会衆とプロの合唱団員では条件が大きく違いますので、これをそのまま会衆讚美や聖歌隊讚美に当てはめることは、まだ慎重に避けるべきでしょう。

[MCS Young Artists](#) という音楽家団体が、合唱とコロナに関する記事をまとめてホームページに掲載し、適宜更新しています。また、[全日本合唱連盟](#)でも6月末に感染症拡大防止の「[ガイドライン](#)」と「[汎用版](#)」が公開されました。今後もこのような動きを注視しながら情報を発信していきたいと考えています。

第二の課題は著作権に関わるものです。讚美歌集を手にした会衆が教会の中で讚美歌を歌うという、これまで礼拝において何の問題もなく普通に行われてきた行為が、インターネット配信においては問題とされるケースが多数報告されました。具体的には、配信に利用しているプラットフォームからの警告、配信の中断、アカウント停止などです。それらの多くは、プラットフォーム側の誤認や、一方的に楽曲の権利を主張する第三者の存在によるものでしたので、配信側の教会に違法性や落ち度がない場合には、教会からの異議申し立てで解決するケースがほとんどでした。いずれにしても、これらのことを通して、日本の教会においても著作権についての意識が大いに高まったことは間違いありません。

この半年間で、私たちも、かつてなかったほど多くの問い合わせを受けましたが、そのほとんどがインターネット配信にかかわる讚美歌の著作権問題でした。著作権の問題は非常に複雑で、特にインターネットに関わる部分では、著作権法や、著作者と著作権管理団体との契約以外に、著作権管理団体と配信業者との契約によって規定されている部分が多く、その内容や関係性はかなり流動的なものになっています。常に状況を把握し、適切な対応をするためには継続的で注意深いリサーチが必要になりますが、それには多くの労力とコストがかかります。今回、問い合わせをいただいた教会から、申請や手続きの状況をフィードバックしていただくことで、最新の情報を得ることができたケースが何件かありました。情報を提供してくださった皆さまに、心から感謝を申し上げます。現在、それらの情報を元に、主要な配信プラットフォームで使用できる『教会福音讚美歌』掲載作品のリストをまとめているところです。今しばらく時間をいただきたいと思います。

■ JEACS の新しい体制

さて、このような状況下で6月15日(月)の午前に福音讚美歌協会の定例理事会が、同日午後には第15回の定時社員総会が、どちらもオンラインで開催されました。

理事会では昨年より準備してきました「[顧問規程](#)」が承認されました。顧問は「(1) この法人の事業の発展向上のために有益な助言及び活動をなしうる者」「(2) この法人の事業に関し造詣が深く、指導的見解を有する者」の中から選ばれることになっています(「[顧問規程](#)」より)。

初代の顧問には、安藤能成師(日本同盟基督教団：以下「同盟」)、内田和彦師(日本福音キリスト教会連合：以下「JECA」)、藤本満師(イムマヌエル綜合伝道団：以下「イムマヌエル」)の3名の先生方が就任されました。この困難な時代に、顧問の先生方のご指導をいただきながら、諸教会、関係諸団体との連携をさらに深め、みことばに堅く立ちつつ、主と主の教会に仕える働きを進めたく願っています。

総会では理事の改選が行われ、理事長に中山信児(JECA)、副理事長に北田直人(イムマヌエル)、理事に李俊昊(同盟)、佐藤信行(イムマヌエル)、鈴木國友(同盟)、大嶋英知(JECA)が選ばれ、これからの2年間、JEACSの運営を担うこととなりました。皆さまのお祈りとご支援をお願い申し上げます。

* 決算報告 *

2019年4月～2020年3月

■収入の部■

科 目	2019 年度予算	2019 年度実績
会員負担金	1,140,000	1,060,000
(正会員)	(750,000)	(750,000)
(準会員)	(60,000)	(60,000)
(賛助会員)	(330,000)	(250,000)
自由献金	380,000	648,000
積立金取り崩し	100,000	255,600
特別収入	30,000	0
その他	0	8,002
当年度収入合計 (A)	1,650,000	1,971,602
前年度繰越金	657,160	657,160
収入合計 (B)	2,307,160	2,628,762

■支出の部■

科 目	2019 年度予算	2019 年度実績
理事会費	115,000	116,606
委員会費	270,000	443,233
人件費	360,000	360,000
事務費	193,000	229,323
ジャーナル発行費	405,000	282,275
カンファレンス開催費	160,000	137,608
総会開催費	25,000	6,543
JEA 関係費	90,000	91,436
経常支出合計	1,618,000	1,667,024
特別支出 積立金	100,000	100,000
予備費	20,000	0
当年度支出合計 (C)	1,738,000	1,767,024
当年度収支差額 (A) - (C)	-88,000	204,578
繰越額/残高 (B) - (C)	569,160	861,738

●賛助会費納入者・献金者一覧 (2019年4月～2020年3月)

個人：稲垣博史・緋紗子、大賀勝範、大瀧晴男、小川宣嗣、北田直人、篠田安子、高橋和江、寺村秀嗣、中山信児、福田崇・愛子、本間昭弘、三森美智代、山村雅彦、匿名 (14件)

教会・団体：石川福音教会、泉キリスト教会、牛久福音キリスト教会、宇堅福音教会、キリスト教朝顔教会、グレイスオンライン、グレースコミュニティ、菅生キリスト教会、世田谷中央教会、千歳烏山光の聖書教会、都賀キリスト教会、登戸教会、橋本キリスト教会、馬天キリスト教会、別府キリスト教会、前橋キリスト教会、武蔵台キリスト福音教会、日本福音キリスト教会連合 (18件)

お名前掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール (info@jeacs.org) で、その旨をお知らせください。

夏期献金のお願いと賛助会員のお誘い

ハレルヤ。

新しい歌を主に歌え。

敬虔な者たちの集まりで主への賛美を。

詩篇 149:1

いつも福音讃美歌協会の働きを祈り支えてくださり、心から感謝いたします。
「讃美歌の働きは個人や団体の働きである以前に教会の働きである」というのは、私たちが設立当初から大切にしてきた理念です。讃美歌は教会の中で生み出され、教会の中で用いられます。実際に祈りつつ奉仕するのは個々人であっても、それは「わたくし」の働きではなく「教会」の働きです。『教会福音讃美歌』という歌集の名前にも、その理念を見ることができるようでしょう。

JEACSの働きが、すべて教会に仕え、主に仕える働きであるからこそ、私たちは教会の祈りと支援を必要としています。また、教会の声を聞くことを必要としています。礼拝と讃美の現場で何が求められ、どんな課題があるのか、それぞれの教会の声をお聞かせください。

現在、新しく JEACS が取り組んでいる課題に『教会福音讃美歌』の全曲音源データ作成があります。『教会福音讃美歌』の発行直後から、諸集会で讃美伴奏として用いることのできる音源が強く求められてきました。我々も様々な方法を検討してきましたが、多くの道が閉ざされた後に、ようやく現実的な方法を見いだして、作業に取りかかろうとしているところです。この秋には全曲音源データについての全容をお知らせすることができるよう願っています。

また、新型コロナウイルスの影響で礼拝や讃美の配信を行う教会が急増し、著作権についての関心も、にわかに高まってきました。複雑で急激な環境の変化に対応するために、著作権について一定の見識を持った奉仕者の確保と育成も急務となっています。

福音讃美歌協会は設立以来、いのちのことば社と共に多くの事業を行ってきましたが、新型コロナウイルスの影響は出版社の経営にも深刻な影響を与えています。皆様のお祈りとお献げくださる献金は、これからの JEACS の事業と運営のための大切な土台となります。これからも、この働きが主の御心にならって継続されるために、さらなるお祈りとご支援をいただきたく、心からお願い申し上げます。また、賛助会員として、この働きを継続的に支援してくださる教会、個人も募集しています。

福音讃美歌協会 理事会

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127
名称 福音讃美歌協会

◆ゆうちょ銀行口座◆

〇一八店 普通 7252410
一般社団法人 福音讃美歌協会

◆みずほ銀行ユーカリが丘支店◆

普通預金 番号 1604668
名称 福音讃美歌協会

■福音讃美歌協会 ◆賛助会員募集

- ・「賛助会員」は、福音讃美歌協会の趣旨に賛同し、支援して下さる教会や個人の会員です。
- ・賛助会員のお申し込みは、福音讃美歌協会までメールかFAXで入会申込書をご請求ください。
- ・賛助会員の年会費は、一口5,000円で、個人は一口から、教会は二口からでお願いします。
- ・正会員、準会員の詳細については、福音讃美歌協会まで直接お問い合わせください。



福音讃美歌協会 (JEACS)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 602号室
Tel.03-5341-6920 Fax.03-5341-6921 (いのちのことば社出版事業部内)
ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org